

死に至ることも！ ～乳幼児のボタン電池の誤飲～

ボタン電池は玩具によく使用しますが、時計、タイマー、LEDライトなど、多くの日用品でも使われています。誤飲すると、放電の影響で短時間でも食道に穴が開いてしまうなど重症例があり、場合によっては死に至ることもあります。

重症化の事例を知り、ボタン電池が使われている製品の点検や保管方法に注意しましょう。

【事例1】

電池を入れておくケースのふたが開いていた。ボタン電池が1個見当たらず「もしかして……」と、子どもを連れて受診。レントゲンでボタン電池が確認され摘出手術を受けた。食道に穴が開きかねない予断を許さない状態で、約1か月入院した。

【事例2】

引き出しに収納してあったLEDライト付き耳かきが放り出してあり、子どもがボタン電池を誤飲した。病院で9時間かけて取り出したが、気管と食道に穴が開き2か月入院した。



【アドバイス】

一刻も早く医療機関に行くことが重要

「飲み込んだ」「鼻の中に入れてしまった」というときは、すぐに救急車を呼びましょう。はっきりしない場合でも、誤飲の可能性がある場合は受診しましょう。

ふたが外れやすくなっていないか確認する

電池部のふたが外れやすくなっていないか確認し、危険性があれば子どもの手の届かない所に置き、ふたをテープで止めるなどの対応をしましょう。

子どもの手の届かない所に保管

子どものきょうだいが取り出してしまうこともあります。きょうだいに、下の子が飲み込んでしまう可能性があることを教えておきましょう。

ボタン電池の交換は子どもの目に触れない所で

交換は子どもが寝ている間など、子どもの目に触れない時間や場所で行いましょう。

岡旭市消費生活センター(☎63-7272)・相談直通電話
(☎62-8019)